

平成31年（2019年）度 リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 推薦要領

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会では、毎年、継続的な活動を通じて廃棄物等の3Rに取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施しております。

このたび平成31年度の募集を開始いたしますので、多数ご推薦くださいますようお願い申し上げます。

<対象となる取組>

- ・自らが3Rを実践する活動であり他の模範となる取組
- ・他者・地域との3Rを推進するための連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- ・3Rを推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ リデュース、リユース、リサイクルのいずれか1つの取組も対象です。

また、これらの2つの組み合わせ、3つ全ての取組も対象です。

※ 他と比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば、既に比較的普及している3Rの取組であっても対象です。

- 推薦機関からの推薦締め切り

2019年4月19日（金）（事務局に必着）

4月15日（月）連合会に必着

- 推薦締め切り後のスケジュール

審査結果通知（推薦機関宛）： 2019年9月中旬 予定

表彰式： 2019年10月下旬、東京 予定

- ご提出先及びお問い合わせ先

〒106-0032

東京都港区六本木3-1-17 第2ABビル4F

公益社団法人全国産業資源循環連合会

調査部 日浦 宛

TEL 03-3224-0811 FAX 03-3224-0820

主催 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

<目 次>

表彰制度の概要、応募方法等	1
推薦一覧 様式	7
推薦書 様式	9
候補者の概要書 様式 1 (個人・グループ・学校用)	11
候補者の概要書 様式 2 (事業所・地方公共団体等用)	19
<参考1>表彰の募集対象となるリデュース・リユース・リサイクル (3R) の取組の例	26
<参考2>過去に受賞した取組の紹介	28

表彰制度の概要、応募方法等

1. 目的

リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）（以下「3R」といいます）に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている者を表彰することによりこれらの活動を奨励し、もって循環型社会の形成推進を図ることを目的としています。

2. 主催

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

3. 後援

後日、協議会ホームページにて掲載

4. 募集対象

循環型社会の形成に向け、廃棄物等の3Rに率先して取り組み、資源の有効利用、環境への負荷の低減に継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている「個人・グループ・学校」及び「事業所・地方公共団体等」（以下「候補者」といいます）。なお、次のような活動が対象です（具体例は、26～27ページの「表彰の募集対象となる3Rの取組の例」を参考にしてください）。

- ・自らが3Rを実践する活動であり他の模範となる取組
- ・他者・地域との3Rを推進するための連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- ・3Rを推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ 推薦にあたっては「審査基準」（6ページ）の評価項目をご考慮ください。

（対象者）

- 「個人・グループ・学校」： 個人、自治会、ボランティア、学校 等
- 「事業所・地方公共団体等」： 企業、工場、都道府県、市町村 等

※学校と企業の連名などの場合、どちらがより主体的に活動を行っているかによって「候補者の概要書」の様式を選んでください。不明な場合は、事務局（全国産業資源循環連合会）までご連絡ください。

5. 賞の種類

後日、協議会ホームページにて掲載

6. 募集方法

本表彰では、以下の①～③の推薦機関からの推薦により「4. 募集対象」に定める候補者を募集します。候補者が直接当協議会に自薦応募することはできません。

- ①リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の会員団体
- ②地方自治体（都道府県、政令指定都市、中核市、特別区） ※2019年1月基準
- ③建設副産物対策地方連絡協議会

7. 応募の方法

(1) 提出書類

推薦機関は、この推薦要領に定める様式により、以下の①推薦一覧、②推薦書（候補者1件につき1通ずつ作成）、③候補者の概要書（候補者に作成を依頼し、内容を確認）を提出してください。併せて、活動の様子がわかる写真、参考資料（パンフレット等）を3部添付してください。提出書類の様式、提出部数等は下表をご参照ください。

この推薦要領（Microsoft Word 形式）はリデュース・リユース・リサイクル推進協議会のホームページからダウンロードできますのでご利用ください。（<http://www.3R-suishinkyogikai.jp/commend/suisen>）

提出書類		書類の作成者	記入様式	提出部数 提出方法
①推薦一覧（推薦案件全体に対して1通作成してください。）		推薦機関	7ページ	■提出部数 ・紙媒体 3部(正1・副2) ・電子媒体1部 （電子媒体は、記入済の①～③のMicrosoft Word ファイルを押印なしのままCD-R等で提出。）
②推薦書（1件の候補につき1通ずつ作成し、「③候補者の概要書」を添付してください。）*			9～10ページ	
③候補者の概要書	個人・グループ・学校用 【様式1】	候補者	11～17ページ	
	事業所・地方公共団体等用 【様式2】		19～25ページ	

* 推薦機関から特に申し伝えたい事項（推薦理由等）がある場合には推薦書に記述ください。

<提出にあたって>

- ・「③候補者の概要書」は、活動内容の写真（画像データ）や図表等を添付してください。
また、活動内容に関する参考資料（パンフレット等）があれば、印刷物3部及び電子ファイル1部を提出してください。
- ・提出書類はホッチキス留めにせず、クリップで留めてください。
- ・①～③の書類の電子媒体（Microsoft Word ファイル）は、押印なしのままで提出してください。PDF ファイルなどに変換したものや、印刷したものをスキャナーで読み込んだものではなく、記入したMicrosoft Word ファイルをそのまま提出してください。候補者一覧データの入力、表彰結果発表冊子の原稿作成に使用します。
- ・書き方が不明な場合、事務局（全国産業資源循環連合会）までご連絡ください。

(2) 推薦機関からの提出期限

2019年4月19日（金）（必着） **4月15日（月）必着**

(3) ご提出先

〒106-0032

東京都港区六本木3-1-17 第2ABビル4F

公益社団法人全国産業資源循環連合会 調査部 日浦 宛

8. 推薦にあたっての注意事項

- ①推薦書（印刷物3部）は必ず推薦機関の代表者（協議会会員団体の長、都道府県知事、政令指定都市市長、中核市市長、特別区区長、建設副産物対策地方連絡協議会会長）名で作成し、代表者印を押印のうえ提出してください（電子媒体は、押印なしのまま提出してください）。
- ②必ず事前に候補者の承諾を得ておいてください。
- ③推薦機関は、候補者に法令違反や係争・紛争、その他表彰対象者として相応しくない事項が無いかを確認のうえ推薦してください（推薦書のチェック項目をご活用ください）。
なお、チェック項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。
- ④過去に受賞した候補者を同じ取組内容で繰り返し推薦することをご遠慮ください。過去受賞時とは別の取組であれば推薦可能です。過去に受賞した企業の別の事業所や工場での活動、あるいは過去に受賞した建設会社や共同企業体が行う別の工事等は別の取組と見なします。
- ⑤過去受賞時の延長線上にある取組であっても、その後の拡大・発展が著しく上位賞の候補になると判断した場合は推薦可能です。その場合は、過去受賞時から拡大・発展したポイントについて、候補者の概要書の「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。
- ⑥同じ取組内容で過去5年間に他の表彰制度にて受賞した場合又は他の表彰制度に推薦されている若しくは応募中の場合、同じく「過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況」欄に記入してください。
- ⑦推薦機関は審査結果等については責任を負わないものとします。

9. 審査

有識者等からなる「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰審査委員会」を設置し、「審査基準」（6ページ）に基づき、応募案件の審査を行います。

10. 結果の通知

推薦機関に審査結果（入賞内定または選外）通知（9月中旬予定）を送付した後、入賞内定者には内定通知（推薦機関へ通知した1週間～10日後）を送付します。選外については特に通知いたしません。

11. 表彰式

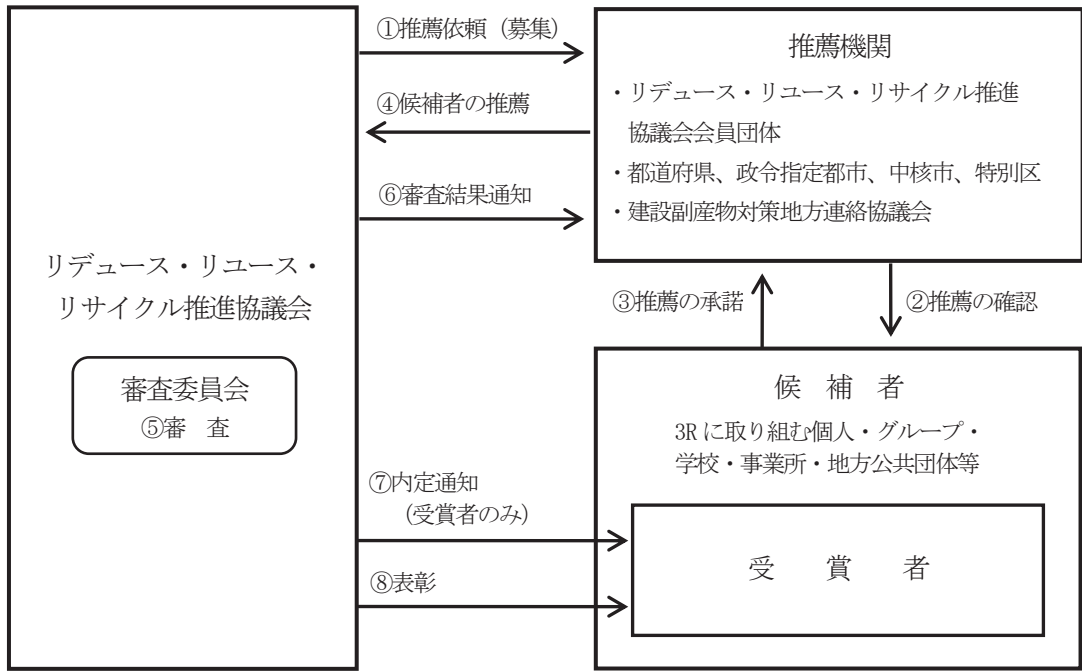
2019年10月下旬 東京都内で挙行予定

12. 個人情報の取り扱いについて

推薦書、候補の概要書等に記入された個人情報は、本表彰の実施に関連する用途以外には使用しません。

13. 募集から表彰までの流れ

連合会は、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会の会員団体である「建設副産物リサイクル広報推進会議」の会員です。



[募集から表彰までの流れ]

平成31年(2019年)度
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
審査委員会委員名簿(予定)

(敬称略)

氏名	所属機関
木村文彦	東京大学名誉教授
大石美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 代表理事・副会長
角田禮子	主婦連合会 参与
小澤紀美子	東京学芸大学名誉教授
斎藤正一	日経BP社 日経ESG経営フォーラム事務局長
細田衛士	慶應義塾大学 経済学部教授
森 挙一	日本商工会議所 産業政策第二部 課長
吉井 浩	国 税 庁 長官官房審議官
清水 明	文部科学省 総合教育政策局長
迫井正深	厚生労働省 大臣官房審議官
新井ゆたか	農林水産省 食料産業局長
飯田祐二	経済産業省 産業技術環境局長
麦島健志	国土交通省 総合政策局長
山本昌宏	環 境 省 環境再生・資源循環局長

審査基準

○個人・グループ・学校

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の3R活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
活動頻度	活動頻度を評価する。
独創性・先鞭性	当該主体で考案された独自の活動か、先進的に取り組んだ活動かを評価する。
波及効果、啓発・教育効果	他者の3R活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

○事業所・地方公共団体等

評価項目	具体的な評価事項
継続期間	主体の特性に応じて活動の継続性を評価する。
対象品目・量等の実績、活動の効果	活動対象品目の範囲・3R対象量等の活動実績及び活動により得られた効果（廃棄物の削減効果、省資源・省エネ効果、環境保全効果等）を評価する。
地域性	活動範囲（実施主体の特性や活動内容を勘案しつつ、活動範囲の広さを評価する。） 他主体・他地域との連携（他の3R活動主体や他地域との連携について評価する。） 地域密着性（地域の特性や廃棄物問題を踏まえた活動であるかを評価する。）
独創性・先鞭性	独創性・先鞭性（製品、サービス、技術、社会システム等の開発を含む）を評価する。
波及効果、啓発・教育効果	他者の3R活動に与えた効果を評価する。また、機関誌の発行、講演会・研修会の開催等による啓発・教育活動を行っている場合は、その効果を評価する。
その他評価	リデュース・リユース・リサイクルの各分野にわたる活動、上記評価項目や点数配分では評価しきれない優れた項目、内容等があれば、加点する。

(推薦機関が作成)

平成31年(2019年)度
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
推薦一覧

2019年 月 日

推薦機関名: _____

No.*1	候補者名 (連名による候補の場合は、同じマスに名前を列記してください。)	「候補者の概要書」 の様式*2
1		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
2		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
3		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
4		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
5		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
6		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
7		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
8		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
9		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2
10		<input type="checkbox"/> 様式1 <input type="checkbox"/> 様式2

*1 11件以上の推薦がある場合、一覧を適宜追加し、番号は連番(11～)にて採番してください。

*2 「様式1(個人・グループ・学校)」又は「様式2(事業所・地方公共団体等)」のいずれかに☑をしてください。

推薦件数が1件の場合も、この一覧をご提出ください。

(推薦機関が作成)

平成31年(2019年)度
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰
推薦書

2019年 月 日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会 御中

(推薦機関名)

(代表者役職・氏名)

印

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の候補として下記の者を推薦します。

記

1. 候補者名 (連名による候補の場合は、名前を列記してください。)

	(推薦一覧のNo:)
--	-------------

2. 推薦機関における候補の選定方法 (例: 担当部署又は審査会設置による選定等)

[]

3. 取組内容の確認方法 (例: 現地調査又は候補者、関係者等のヒアリング等)

[]

4. 上記候補者の他の3R関係の表彰への推薦状況

貴機関において、上記候補者を平成31年度に他の3R関係の表彰に推薦している又は推薦を予定している場合には、その表彰について記入してください。

①他の3R関係の表彰への推薦の実績や予定について該当するほうに○をしてください。 ある ・ ない	
② (①にて「ある」に○を付けた場合のみ) 下に当該表彰名を記入ください。 枠が足りない場合は、適宜追加してください。	
推薦状況 (該当するほうに○)	表彰名
既済 ・ 予定	
実績 ・ 予定	
実績 ・ 予定	

※次ページに続きます

5. コンプライアンス等に関するチェック

上記候補者の推薦に当たり、以下の事項を確認し、該当する場合は□欄にチェックマーク(✓)を付けてください。

- 候補者に法令違反の事実はない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□
- 係争・紛争等の問題は無い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・□
- その他受賞者として相応しくない事項は無い・・・・・・・・・・・・□

注) これらの項目が全てクリアされている候補者であっても、審査において受賞者として不適当と判断されることがあります。

6. 推薦理由

上記候補者について、推薦機関から見て特筆すべき活動の優れた点、または候補者の概要書を補足する内容等をご記入ください（自由形式、スペースが足りない場合には、枠を適宜拡大してください）。

7. 当推薦についての推薦機関の連絡先等

推薦機関名		
住所		(〒 -)
連絡先*	所属部署	
	氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	Eメール	

* 「連絡先」は、この推薦の件に関する連絡・問合せ等の窓口となる担当者をご記入してください。

候補者の概要書 (個人・グループ・学校用)

1. 候補者の名称、連絡先等

①候補者名 ^{*1} (個人・グループ・学校の名称) *1 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。	カガナ (半角カナ) : -----
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村まで記入)	
③代表者役職・氏名	印
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください。)	住所 (〒 -)
	所属機関等の名称
	部署・役職
	氏名
	電話番号
	FAX番号
	Eメール

連名による応募の場合、もう 1 者の名称・連絡先等を記入し各者押印してください。3 者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加してください。

①候補者名 ^{*1} (個人・グループ・学校の名称) *1 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく 30 字以内にしてください。	カガナ (半角カナ) : -----
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村まで記入)	
③代表者役職・氏名	印
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください。)	住所 (〒 -)
	所属団体等の名称
	部署・役職
	氏名
	電話番号
	FAX番号
	Eメール

2. 3R 活動の実施内容（推薦対象の 3R 活動の内容について記入してください。）

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表す活動テーマ名を 40 字以内で付けてください。
② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。
次のような項目について内容を記述ください。
（1）どのような 3R 活動か
（2）取組のポイント、特長
（3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ
（4）今後の予定
など
注釈
1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。
2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。
3. 過去の内閣総理大臣賞受賞者の活動概要（表彰結果発表冊子）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考にしてください。 (http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki)

※枠はこのまま使用して、上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。

以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目(③～⑫)ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

(③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。)

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）

3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。

ご記入内容は次のような内容です。

- (1) どのような 3R 活動であるかの詳細
- (2) 取組のポイント、特長の詳細
- (3) 他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細
- (4) 今後の予定の詳細

など

④ 3R 活動の区分

実施している活動の区分について、該当するものに○を付けてください（複数選択可）。リデュース・リユース・リサイクルのどれに該当するか判断が付きにくい場合は、26 ページの「表彰の募集対象となる 3R の取組の例」を参考にしてください。

リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等

⑤ 活動開始時期・継続年数

3R 活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑥ 対象品目・量等の実績

3R 活動の対象品目、および過去 3 年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生品の名称や用途（例：再生紙等）を記入してください。

<リデュース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リユース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リサイクル>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

⑦ 活動の効果
<p>3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。 「⑥対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑥対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。</p> <p>【廃棄物の削減効果】</p> <p>【省資源・省エネルギー効果】</p> <p>【環境保全効果】</p> <p>【その他の効果】</p>
⑧活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性
<p>3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。</p> <p>他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。</p> <p>地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。</p>
⑨活動の頻度
<p>3R 活動の実施頻度を記入してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(記入例) びんの回収：週 1 回、古紙の回収：毎日、フリーマーケット開催：月 1 回等</p> </div>

⑩独創性・先鞭性

他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。

⑪啓発普及・教育活動の実施、波及効果

3Rに関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。

他のグループ・学校等の3R活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。

⑫その他活動の工夫点

上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。

3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

- (A) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (B) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容とは違うテーマの活動で受賞
- (C) 過去5年間に、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (D) 本年度、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び 応募状況 (上記(A) ～(D)を 記入)	表彰制度名 (上記(C)、(D)の場合、 記入)	受賞年度 (上記(A)～ (C)の場合、 記入)	受賞した賞の種類 (上記(A)～(C)の場合、 記入)	受賞時のグループ名・学校 名が現在と異なる場合、 当時の名称 (上記(A)～(C)で該当する 場合、記入)

上記で (A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R 実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

記入例は削除して、ご記入ください。

	過去（ 年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R 活動の内容 (拡大発展した ポイントが分か るように対比)	(記入例) ・資源ごみの集団回収活動 ・生ごみの堆肥化	(記入例) 左記の活動に加え、〇〇年から家具・日用品等の修理・不用品交換 の事務局活動を開始、リサイクルのみならずリユースにも取り組む ようになった。また、資源回収の対象品目も増え、活動の参加者や リサイクル量実績も格段に進展した。
3R 対象品目 について	(記入例) ・集団回収： 古紙、ガラスびん、アルミ缶 ・堆肥化： 生ごみ	(記入例) ・集団回収： 古紙、ガラスびん、アルミ缶、PET ボトル ・堆肥化： 生ごみ ・不用品交換： 家具・衣類・日用品・図書等
3R の実績量 について	(記入例) ・古紙回収量： 500kg/年 ・ガラスびん回収量： 1,200 本/年 ・アルミ缶回収量： 200kg/年 ・生ごみ処理量： 150kg/年 (堆肥生産量： 40kg/年)	(記入例) ・古紙回収量： 1,200kg/年 ・ガラスびん回収量： 2,500 本/年 ・アルミ缶回収量： 800kg/年 ・生ごみ処理量： 500kg/年 (堆肥生産量： 200kg/年) ・不用品交換の成立実績： 120 件/年
活動の実施地域 について	(記入例) 〇〇町内で実施	(記入例) 〇〇町に加え、隣接する××町、△△町に活動範囲を拡大
活動の参加者数 について	(記入例) 〇〇町内の 25 世帯が活動に参加	(記入例) 〇〇町 50 世帯、××町 15 世帯、△△町 20 世帯が活動に参加す るようになった。
活動の質的な 向上について	(記入例) 生ごみ堆肥は、グループメンバーが自宅の庭や家 庭菜園で使用	(記入例) 左記に加え、地元農家に協力を求め、野菜栽培に生ごみ堆肥を使 ってもらうようになった。
上記以外の進展 事項、アピールし たいポイント	(記入例) 他の 3R 活動グループとの情報交流を通じて活動のレベルアップを図るために、平成〇〇年にホームページとインターネ ット掲示板を開設した (アドレス http://〇〇〇〇.jp)。	

候補者の概要書 (事業所・地方公共団体等用)

1. 候補者の名称、連絡先等

①候補者名 ^{*1} (事業所・地方公共団体等の名称) ^{*1} 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。	カカナ (半角カナ) : <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>														
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村まで記入)															
③代表者役職・氏名	印														
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">住所</td> <td style="padding: 2px;">(〒 -)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所属企業・機関名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">部署・役職</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">氏名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">電話番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">FAX番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">Eメール</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>	住所	(〒 -)	所属企業・機関名		部署・役職		氏名		電話番号		FAX番号		Eメール	
住所	(〒 -)														
所属企業・機関名															
部署・役職															
氏名															
電話番号															
FAX番号															
Eメール															

連名による応募の場合、もう1者の名称・連絡先等を記入し各者押印してください。3者以上の連名の場合は、記入欄を適宜追加してください。

①候補者名 ^{*1} (事業所・地方公共団体等の名称) ^{*1} 表彰状はこの欄に記入された名称により作成しますので、正確にご記入ください。名称は、なるべく30字以内にしてください。	カカナ (半角カナ) : <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>														
②取組の実践場所 (都道府県及び市区町村まで記入)															
③代表者役職・氏名	印														
④連絡先 (連絡・問合せ等に対応できる担当者 を記入してください)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 2px;">住所</td> <td style="padding: 2px;">(〒 -)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">所属企業・機関名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">部署・役職</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">氏名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">電話番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">FAX番号</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">Eメール</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>	住所	(〒 -)	所属企業・機関名		部署・役職		氏名		電話番号		FAX番号		Eメール	
住所	(〒 -)														
所属企業・機関名															
部署・役職															
氏名															
電話番号															
FAX番号															
Eメール															

2. 3R 活動の実施内容

※欄内の説明文（コメント）、記入例は削除し、ご記入ください。

① 活動テーマ名
推薦対象の 3R 活動の内容を端的に表すテーマ名を 40 字以内で付けてください。
② 活動概要（表彰結果発表冊子に使用します。非公開の情報は「③活動の詳細内容」にご記入ください。）
活動内容を、写真、図表なども含めて、当枠内に記入してください（MS 明朝、9 ポイント）。 ※ 枠を上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。
次のような項目について内容を記述ください。 （1）どのような 3R 活動か （2）取組のポイント、特長 （3）他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ （4）今後の予定 など
注釈 1. 写真、図表等を活用して、取組の特長などが伝わるようにご記入ください。 2. 当欄の記入内容は、受賞取組をまとめた表彰結果発表冊子に使用いたします。非公開の情報など一般公開できない内容がある場合には、当欄ではなく次ページ「3. 活動の詳細内容（審査用）」にご記入ください。 3. 過去の内閣総理大臣賞受賞者の活動概要（表彰結果発表冊子）を 29 ページに添付していますので、ご参照ください。 また、それ以外の受賞者の活動概要もリデュース・リユース・リサイクル推進協議会ホームページからダウンロードできますので、ご記入の際の参考にしてください。 http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki

※枠はこのまま使用して、上げたり、次ページに繰り越したりしないようにお願いします。

以下の各項目は、全項目が審査対象（未記入の場合は、当該欄の評価点がゼロ）となりますので、必ず全項目(③～⑫)ご記入ください（6 ページ「審査基準」ご参照）。

(③以降の記入欄の大きさが足りない場合は、枠を適宜拡げてご記入ください。)

③ 活動の詳細内容（審査用。非公開）

3R 活動の具体的な実施内容について、写真・図表等を用いてご記入ください。

ご記入内容は次のような内容です。

- (1) どのような 3R 活動であるかの詳細
- (2) 取組のポイント、特長の詳細
- (3) 他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところの詳細
- (4) 今後の予定の詳細

など

④ 3R 活動の区分

実施している活動の区分について、該当するものに○を付けてください（複数選択可）。リデュース・リユース・リサイクルのどれに該当するか判断が付きにくい場合は、26 ページの「表彰の募集対象となる 3R の取組の例」を参考にしてください。

リデュース	リユース	リサイクル	啓発普及等

⑤ 活動開始時期・継続年数

3R 活動を開始した年月及び継続年数を記入してください。

⑥ 対象品目・量等の実績

3R 活動の対象品目、および過去 3 年間にリデュース、リユースまたはリサイクルした量の実績を記入してください（重量、体積、数量の単位は適宜変えてください）。なお、リサイクルの場合は、再生品の名称や用途（例：再生紙、ガス化燃料、セメント原料、高炉還元材利用等）を記入してください。

<リデュース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リユース>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

<リサイクル>

年度 品目	年度	年度	年度
	t m ³	t m ³	t m ³
	t m ³	t m ³	t m ³
(説明・ポイント・補足など記入してください。)			

⑦活動による効果
<p>3R 活動の実施により得られた効果をできるだけ具体的に記入してください。 「⑥対象品目・量等の実績」の付帯効果、波及効果、書ききれない効果、また「⑥対象品目・量等の実績」に記入したもの以外の内容があれば、記入してください。</p> <p>【廃棄物の削減効果】</p> <p>【省資源・省エネルギー効果】</p> <p>【環境保全効果】</p> <p>【その他の効果】</p>
⑧活動地域の範囲、他の 3R 活動主体や他地域との連携協力、地域密着性
<p>3R 活動の実施地域の範囲を記入してください。</p> <p>他の 3R 活動主体や他地域との連携・協力について具体的に記入してください。</p> <p>地域の特性や廃棄物問題を踏まえた 3R 活動である場合には、その内容を具体的に記入してください。</p>
⑨独創性・先鞭性
<p>他の取組に比較して優れているところ、進んでいるところ、独自なところを記入してください。</p>

⑩啓発普及・教育活動の実施、波及効果							
3R に関する啓発・教育活動の実施内容と成果を具体的に記入してください。							
他の事業所等の 3R 活動に与えた波及効果を具体的に記入してください。							
⑪その他活動の工夫点							
上記以外に特に工夫・努力している点、アピールしたい点等を記入してください。							
⑫他の企業等の協力							
他の企業等（納入業者・下請け企業・廃棄物処理業者・リサイクル業者等）の協力を得て 3R 活動を行っている場合、以下を記入してください。							
(a) 協力を得ている内容を記入してください。							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="padding: 5px;">協力企業の業種</th> <th style="padding: 5px;">協力を得ている事項</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">(記入例) 建材メーカー</td> <td style="padding: 5px;">(記入例) 当工場が発生する廃棄パレットを原料にパーティクルボードを生産している。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">(記入例) 資材納入業者</td> <td style="padding: 5px;">(記入例) 資材の空き容器を引き取ってもらっている。</td> </tr> </table>	協力企業の業種	協力を得ている事項	(記入例) 建材メーカー	(記入例) 当工場が発生する廃棄パレットを原料にパーティクルボードを生産している。	(記入例) 資材納入業者	(記入例) 資材の空き容器を引き取ってもらっている。	
協力企業の業種	協力を得ている事項						
(記入例) 建材メーカー	(記入例) 当工場が発生する廃棄パレットを原料にパーティクルボードを生産している。						
(記入例) 資材納入業者	(記入例) 資材の空き容器を引き取ってもらっている。						
(b) 協力企業における自社発生物のリサイクル状況の把握及び協力企業に対する支援等を行っている場合は、その内容を記入してください。							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> (記入例) <ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回、委託先の現地調査を行い、引き渡した廃棄物が確実に再生利用されたことを確認 ・廃液のリサイクルを委託するにあたって、共同で再生技術の研究開発を行った。 </td> </tr> </table>		(記入例) <ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回、委託先の現地調査を行い、引き渡した廃棄物が確実に再生利用されたことを確認 ・廃液のリサイクルを委託するにあたって、共同で再生技術の研究開発を行った。 					
(記入例) <ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回、委託先の現地調査を行い、引き渡した廃棄物が確実に再生利用されたことを確認 ・廃液のリサイクルを委託するにあたって、共同で再生技術の研究開発を行った。 							

3. 過去の受賞歴及び他の表彰制度への応募状況

今回推薦される内容が、下記(A)～(D)に該当する場合、以下の表にご記入ください。

- (A) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (B) 過去に、本表彰制度で今回推薦される内容とは違うテーマの活動で受賞
- (C) 過去5年間に、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で受賞
- (D) 本年度、他の表彰制度で今回推薦される内容と関連した活動で推薦されている又は応募中（予定も含む）

受賞歴及び 応募状況 (上記(A) ～(D)を 記入)	表彰制度名 (上記(C)、(D)の場合、 記入)	受賞年度 (上記(A)～ (C)の場合、 記入)	受賞した賞の種類 (上記(A)～(C)の場合、 記入)	受賞時の会社名・事業所名 が現在と異なる場合、 当時の名称 (上記(A)～(C)で該当する 場合、記入)

上記で (A)、(C)に○を付けた方は、前回受賞時から進展したポイント（例：活動内容の広がり、活動レベルの向上、3R 実績量の増加、活動地域の拡大等）について、下記の例を参考に具体的にご記入ください。

記入例は削除して、ご記入ください。

	過去（ 年度）受賞時の活動内容	今回推薦を受ける活動内容
3R 活動の内容 (拡大発展した ポイントが分か るように対比)	(記入例) 工場が発生する各種廃棄物・副産物を極力工場内でリサイクルするとともに、自社内で利用できないものは、リサイクル業者の協力により各種リサイクル製品の原料として有効利用を図った。これにより、最終処分量を5年前の1/5（発生量の20%）に削減した。	(記入例) 左記の取組に加え、工場内の各工程において製法・工法の改良、歩留り改善、容器・梱包等のリターナブル化等の手段によって、廃棄物・副産物の発生そのものを大幅に削減した。 これにより、最終処分量ゼロを達成した。
3R 対象品目 及び実施方法 について	(記入例) ・塗料かす：樹脂成型品の増量材として再資源化 ・洗浄用有機溶剤：蒸留して低品位溶剤に再生 ・プラスチック端材：熔融ペレット化して売却 ・段ボール箱：古紙回収業者に引き渡しリサイクル ・廃木製パレット：破碎・チップ化して建材ボード原料としてリサイクル	(記入例) ・塗料かす：静電塗装の採用で発生量を90%削減 ・洗浄用有機溶剤：純水洗浄に切替え全廃 ・プラスチック端材：工程内で100%循環利用 ・段ボール箱：通い箱に切替え発生量を95%削減 ・廃木製パレット：長寿命型のプラ製パレットの採用で発生量を60%削減。破損パレットは補修して再使用
活動の実施地域 について	(記入例) 当社〇〇工場、××工場の2事業所で実施	(記入例) 左記に加え、当社□□工場、△△工場及びグループ企業の2工場に技術移転を行い、現在全国6事業所で実施している。
活動の質的な 向上について		(記入例) 前回受賞時の取組内容はリサイクルに限定されていたが、現在は各工程で3R全般にわたる取組を組み合わせ、高い効果をあげることができた。
上記以外の進展 事項、アピール したいポイント	(記入例) 製法・工法の改良による副産物の発生削減技術は特許を取得した。この特許技術は同業他社や他業種の工場にも採用され、各種産業におけるリデュースの推進に寄与している。	

<参考1>

表彰の募集対象となるリデュース・リユース・リサイクル（3R）の取組の例

<対象となる取組>

- 自らが3Rを実践する活動であり他の模範となる取組
- 3Rを推進するための他者・地域との連携、他者への3Rの啓発・教育活動など他の模範となる取組
- 3Rを推進するための仕組みづくり、3Rを促進する製品の開発・普及などの活動

※ リデュース、リユース、リサイクルのいずれか1つの取組も対象です。

また、これらの2つの組み合わせ、3つ全ての取組も対象です。

※ なお、他に比較して優れたところ、進んだところ、独自なところがあれば既に比較的普及している3Rの取組であっても対象となります。

具体的な取組事例は次のとおりです。

1. リデュース（Reduce＝発生抑制）

製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。

耐久性の高い製品の提供や製品寿命延長のためのメンテナンス体制の工夫なども含まれます。

（取組の例）

<個人・グループ・学校>

- マイバックを持って無駄な包装は断る。
- 詰め替え容器に入った製品や簡易包装の製品を選ぶ。
- 耐久消費材は手入れや修理をしながら長く大切に使う。
- 利用頻度の少ないものは、レンタルやシェアリングシステムを利用する。
- 耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

<事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、製品ができるだけ長く使えるように工夫をする（耐久性、修理性等）。
- 製品を設計する時に、製品ができるだけ少ない材料、部品等で構成されるように工夫する（省資源化）。
- 製品をつくる時に、原材料を無駄なく効率的に使うように工夫する。
- 修理や点検等のアフターサービスを充実することにより、製品の長期使用促進に努める。
- 簡易梱包、簡易包装、詰め替え容器、通い箱等の利用、普及に努める。
- 機械器具等の手入れ方法や修理方法を工夫して長期使用に努める。
- 利用頻度の少ないものをシェアする仕組み、不用品を有効に活用する仕組みをつくる。
- 耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。

2. リユース (Reuse=再使用)

使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。

その実現を可能とする製品の提供、修理・診断技術の開発、リマニュファクチャリングなども含まれます。

(取組の例)

<個人・グループ・学校>

- リターナブル容器に入った製品を選び、使い終わった時にはリユース回収に出す。
- フリーマーケットやガレージセール等を開催し、不用品の再使用に努める。

<事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、本体や部品のリユースがしやすいように工夫をする。
- 使用済製品を回収して本体や部品を再生し、再び新品同様の製品を作り出す。
- 使用済製品、部品、容器を回収し、再使用する。

3. リサイクル (Recycle=再資源化)

廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること。

その実現を可能とする製品設計、使用済製品の回収、リサイクル技術・装置の開発なども含まれます。

(取組の例)

<個人・グループ・学校>

- 資源ごみの分別回収に協力する。
- 資源ごみの効率的な分別回収を広める。
- リサイクル製品を積極的に利用する。

<事業所・地方公共団体等>

- 製品を設計する時に、使用後のリサイクルがしやすいように工夫をする。
- 製品をつくる時に、できるだけリサイクル原材料を使う。
- 使用済みとなった自社製品の回収・リサイクルに努める。
- 発生した副産物・使用済製品を効率的にリサイクルする (仕組みづくりを含む)。

注釈

町の美化、公衆衛生の向上、公害防止 (大気、水質等)、地球温暖化防止などは、資源の有効利用を目的とした3R活動の付随的な効果としては評価の対象ですが、これらが主たる取組の場合は本表彰の対象外です。

<参考2>

過去に受賞した取組の紹介

ご参考までに、過去の表彰で内閣総理大臣賞を受賞した取組概要を紹介いたします。

なお、その他の受賞取組（各大臣賞及びリデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞）についても、協議会ホームページにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

<表彰実績のページ>

協議会ホームページ トップ > 「3R推進功労者等表彰」 > 「表彰実績」

<http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/jisseki>

●受賞取組

<平成30年度受賞>

「個人・グループ・団体」分野

三重県立相可高等学校生産経済科

「事業所・地方公共団体等」分野

株式会社グリーンメッセージ、キューピー株式会社（二者連名）

<平成29年度受賞>

「個人・グループ・団体」分野

八戸市立種差小学校

「事業所・地方公共団体等」分野

清水建設株式会社 東京ビッグサイト東側仮設展示場の建設事業

<平成28年度受賞>

「事業所・地方公共団体等」分野

株式会社リコー リコー環境事業開発センター

<平成27年度受賞>

「事業所・地方公共団体等」分野

株式会社ウジエスーパー、株式会社ウジエクリーンサービス（二者連名）

<平成26年度受賞>

「事業所・地方公共団体等」分野

宝酒造株式会社



内閣総理大臣賞(2件)

内閣総理大臣賞
「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

三重県立相可高等学校生産経済科

所在地

三重県多気郡多気町

受賞テーマ

バイオマス産業のまちづくりを目指して～消化液の液肥利用への取り組み～

受賞者の所在地である三重県多気町ではバイオマス発電所の誘致に取り組んでいる。多気町は松阪牛の肥育、伊勢いも、次郎柿などの特産品があり、農業も盛んである。また、高校生レストランのある町として食についても力を入れている。そこで、図1のようなバイオマス産業集積によるまちづくりを多くの企業や団体と協働し目指した。



図1 目指す地域図

多気町が目指すバイオマス発電所は木質バイオマスだけでなく農業と食のまちとして、食品残渣を利用したバイオマス(ガス)にも取り組んでいる。バイオマスの成功に向けて原料の確保や残渣の活用等多くの課題がある。特に、バイオマスから発生する排熱、CO₂、消化液をどう役に立てるかが課題であり、その中でも消化液の利活用については目途が立っていないのが現状である。そこで、受賞者は消化液の液肥利活用調査に取り組んだ。

ほとんどのバイオマス発電所から排出される消化液は産業廃棄物として処分されているが、受賞者はこれでは環境に優しいバイオマス発電としての意味がないと考えた。同じ排熱、CO₂と言った残渣は暖房や保温として農業利用の可能性はある。消化液も元は食品であることを考えたら肥料として利活用できるのでないかと調査をスタートした。

食の町として今後、発展していくためには飲食店や家庭から出る食べ残しをバイオマス発電所で利用することも重要である。そして、食品残渣による発電の恩恵だけでなく発電所からの消化液を農業利用することによって栽培した作物が町の飲食店や家庭で食される。これは資源の量を少なくすることや産業廃棄物の発生も少なくするリデュース(Reduce)につながる。また、食品の残渣を肥料にして食品を生産する事の繰り返しによりリユース(Reuse)にもつながる。さらに、バイオマス発電としてだけでなく、液肥として有効利用するリサイクル(Recycle)にもつながる取り組みである。

< 1年目の取り組み(平成27年度) >

多気町内の多くの農産物から次郎柿、イチゴ、空心菜を選び調査を開始した。消化液をかん注する回数や1回の量等を慣行栽培と比較しながら、生育、病害虫、味覚について調査した。特に、空心菜は安全性を証明するために細菌検査(一般生菌、大腸菌、大腸菌群、サルモレラ、O-157)も実施した。



空心菜の栽培(消化液散布)

以上の調査により消化液が液肥として有効に利用できる(特に空心菜)事や安全性について証明することができた。

< 2年目の取り組み(平成28年度) >

1年目の調査結果を踏まえ、空心菜の栽培により事実を積み重ねて真実を見つけ出す継続調査を行った。また、モニタリング調査中心ではあるが、イチゴ、次郎柿だけでなく、バジル、ゴーヤ、青梗菜等の作物にも調査範囲を広げ、特に葉菜類に液肥としての効果を確認できた。さらに、消化液を肥料登録するため植害試験を実施し「バイオマスパワー液3Rリキッド」と命名し、肥料登録した。

肥料取締法に基づく表示			
肥料の種類	有機質肥料	養分	窒素(N) 1.0%
養分	リン酸(P ₂ O ₅)	0.5%	
養分	カリウム(K ₂ O)	0.5%	
養分	窒素(N)	1.0%	
養分	リン酸(P ₂ O ₅)	0.5%	
養分	カリウム(K ₂ O)	0.5%	
養分	窒素(N)	1.0%	
養分	リン酸(P ₂ O ₅)	0.5%	
養分	カリウム(K ₂ O)	0.5%	

農林水産省畜産部畜産課 に関する表示			
登録番号	10000000000000000000	登録名称	バイオマスパワー液3Rリキッド
登録日	2016年10月10日	登録種別	液体肥料
登録内容	有機質肥料	養分	窒素(N) 1.0%
		養分	リン酸(P ₂ O ₅) 0.5%
		養分	カリウム(K ₂ O) 0.5%

肥料登録

また、バイオマス栽培による空心菜の生産の成功により販売や経営診断にも取り組み、慣行栽培と比べたバイオマス栽培の有利性も証明した。

バイオマスパワー液による栽培が成功しても販売できなければ意味がなく、また、通常の価格で販売してもバイオマスパワー液栽培の魅力がないため、経営診断の調査にも取り組んだ。この調査を実施するために地域の産直施設「おばあちゃんの店」に協力してもらった。通常、一般的な栽培による空心菜の販売価格は100g50円となっているところを、バイオマスパワー液栽培は40%高い70円に設定して販売したが購入された。

また、労働時間の調査も実施した。調査は慣行栽培とバイオマス栽培のそれぞれの空芯菜栽培における労働時間の比較を行った。作業内容の違いは肥培管理だけであるが、慣行栽培は固形の肥料を散布するだけなのに対し、バイオマスパワー液は液肥を保存しているタンクから運び、かん注するため、約6倍の時間を要するため、労働時間が約10時間多くなっていた。

タンク等の諸材料が必要となったため増加した経費もあるが、肥料を使用しない分、肥料費を削減することができた。そして、収入についても液肥によって収量が増えたこと、また販売価格を4割高くできたことにより所得が3,608円から30,675円に大幅増となった。

慣行栽培			バイオマスパワー液栽培		
作業内容	時間	備考	作業内容	時間	備考
土づくり等	1時間30分	土入れ、肥料等	土づくり等	1時間30分	土入れ、肥料等
播種	1時間30分	100g10個	播種	1時間30分	100g10個
肥培管理	4時間15分	水・肥料散布	肥培管理	4時間15分	水・液肥散布
収穫後処理	40分	100g10個	収穫後処理	40分	100g10個
水管理	1時間30分	水入れ	水管理	1時間30分	水入れ
収穫・出荷	1時間30分	100g10個	収穫・出荷	1時間30分	100g10個
その他	30分	水入れ、肥料散布	その他	30分	水入れ、液肥散布
合計	10時間15分		合計	10時間15分	

労働時間の比較表

栽培法	慣行栽培	バイオマス栽培	備 考
科 目	金額(円)	金額(円)	
種取費合計	44,100	49,300	慣行栽培44,100円、バイオマス49,300円
種子代	2,592	2,592	
土・肥料費	11,127	7,355	慣行栽培11,127円、バイオマス7,355円
農業費	527	527	慣行栽培527円、バイオマス527円
出荷経費	1,834	2,060	慣行栽培1,834円、バイオマス2,060円
減価償却費	3,156	3,156	慣行栽培3,156円、バイオマス3,156円
諸材料費	21,209	22,886	慣行栽培21,209円、バイオマス22,886円
小計	40,492	38,580	
農業所得	3,608	30,720	慣行栽培3,608円、バイオマス30,720円

収支比較表

< 3年目の取り組み（平成29年度） >

平成29年度は硝酸態窒素の含有量を減らす栽培に取り組んだ。近代農業は化学肥料によって発展してきたが、一方で欠点もある。その欠点が硝酸態窒素である。有機肥料も硝酸態窒素へ変化するが、化学肥料は有機肥料に比べ流亡が起りやすいと考えられている。地下水や河川に紛れ込んだ硝酸態窒素が環境問題においてクローズアップされ、また、人間にとっても発がん性や酸欠症を引き起こすと考えられ、有害だと言われている。

そこで、この硝酸態窒素をバイオマス消化液で削減できることの可能性の研究と普及活動に取り組んだ。まず、硝酸態窒素を測定する調査品目を選定した。前年までの調査結果からバイオマスパワー液は葉菜類に効果があることがわかっている。そこで、継続的に調査をしている空心菜、硝酸態窒素含有が高いと言われる青梗菜、播種から収穫までの期間が短いベビーリーフの3品目を選び、調査した。

空芯菜の栽培においては、バイオマスパワー栽培での硝酸態窒素の数値を下げる効果を確認し、特にかん水を抑えながら栽培するとより効果が高くなるということが分かった。

青梗菜においても、バイオマス栽培のものは大幅に硝酸態窒素の数値を下げる事が分かった。

ベビーリーフにおいても、平均で100～150ppm低い数値となり、空心菜、青梗菜同様に硝酸態窒素を削減できる傾向があることが分かった。

生産経済科では、教科「農業と環境」を通じて3R（リデュース、リユース、リサイクル）の大切さに気づき、授業や実習に積極的に取り組んでいる。その学びが礎となりバイオマス産業のまちづくりの目標に向け取り組むことができた。この研究は生産経済科として生徒が環境、農業、食などを考える取り組みとなり、農業を学ぶ生徒にとって有意義なものとなった。研究を開始した時点ではバイオマス消化液を肥料として利活用することを目的としていたが、細菌検査、経営診断、硝酸態窒素削減等いろいろな調査・研究へと展開・発展していき、循環型社会とそれに関連する事柄を幅広く学ぶことができた。

また、校内の学習成果発表会や研究発表会を通して、他の学科の生徒たちにより刺激になっている。農業や食への興味・関心だけでなく、ごみの分別や食べ物を残さない事の大切さなどの環境学習にもつながっている。また、他の環境に関する調査・研究（絶滅危惧種アゼオトギリの保全活動）をしている生徒も科学的・社会的な側面からの研究に取り組むようになった

今後の展望として、他の農産物への調査対象拡大、地域企業や団体とより協働強化をした地域ブランドの構築、バイオマス栽培の省力化、所得向上、GAP認証にも取り組んでいこうとしている。

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

**株式会社グリーンメッセージ
キューピー株式会社**

所在地

神奈川県大和市、東京都渋谷区

受賞テーマ

**キューピーグループにおける未利用資源を活用した資源循環の推進
～野菜未利用部を活用した新たなエコフィードへの挑戦～**

受賞者を含むキューピーグループでは、理念を実践していく上で大切な姿勢としてグループ規範（倫理規範・行動規範）を定めている。グループ各社の事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っており、事業活動が与える自然への影響へ十分に配慮し、資源の有効活用と環境保全に真摯に取り組むことで持続可能な社会を次世代へつなぐことを使命と考えている。例えばサラダ・惣菜事業では、資源循環に共感する多くの企業と連携している。

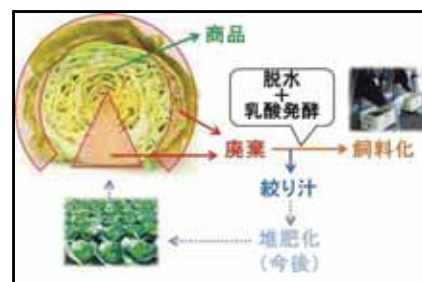
（株）ポテトデリカおよび（株）旬菜デリでは、これまで廃棄物とされていたジャガイモの皮を豚用のリキッドフィード（液体飼料）に、（株）サラダクラブでは野菜残さを活用した食品リサイクル・ループの構築を進めてきた。



近年、家庭内の食事から弁当・惣菜などの中食やレストランなどの外食へ食シーンが変化し、「野菜」の需要は、加工・業務用が過半を占めるようになった。このような背景の中、受賞者は野菜を工場でカットして袋詰にする業務用向け「カット野菜」を製造・販売している。事業が拡大する一方で工場からは、毎日膨大な量の端材（キャベツの芯や外葉など）が発生し、産業廃棄物として処分されていた。同社はこの端材を「残渣」ではなく「未利用資源」もしくは「野菜未利用部」と呼び、新たな挑戦として飼料化への再生利用を検討した。当初は野菜未利用部を粉砕および脱水し、減容および減量していたが、脱水後の未利用部を独自の技術によりオンサイトでサイレージ化（青刈り作物や生の牧草をサイロ内で乳酸発酵させて貯蔵した飼料にすること）することに成功した。その結果、長期保管可能な乳牛用飼料として静岡県の大規模酪農家への提供を開始することができた。



カット野菜工場から主に排出される葉物野菜未利用部は、水分率が高く、乳牛用の飼料としては硝酸態窒素（多量摂取は疾病の原因）含量が比較的高いため、牛用飼料としては不適とされている。そこで、野菜未利用部を減容・減量できるスクリュープレス式の脱水機を導入した。この脱水により、水溶性の硝酸態窒素は固形分から分離できるため、硝酸態窒素含量の削減に成功した。また、野菜未利用部サイレージをそのまま乳牛用飼料とするのではなく、混合飼料（Total Mixed Rations: TMR）の一部として使用することにより、既存粗飼料の代替として問題なく置換できた。既存の粗飼料（アルファルファ等）の多くは海外からの輸入に頼っており、近年右肩上がりで価格が上昇している。また、為替相場の変動も酪農家の経営を圧迫する一因となっている。同社が調製している野菜未利用部サイレージは、副産物であるため、飼料価格の高騰や為替相場に左右されず、安価で安定した供給が可能である。また、国産野菜を使用しているため飼料自給率の向上にも寄与できる。資源の有効活用、酪農家の経営安定さらには飼料自給率の向上といった三方よしの取組と言える。



一般的に食品残さを活用したエコフィードでは、豚用飼料に転換されることが多い。これは、牛用飼料は、牛海綿状脳症（BSE）を防ぐ観点から、動物性のたんぱく質を含む飼料の給与が禁止されており、いわゆる食品残さではこの担保が難しいとされているからである。また、牛は豚よりも嗜好性が高く、好まないものは全く食べないと言われている。したがって、安全性の担保や嗜好性の面で課題が多く、エコフィードの活用が難しい動物の一つと考えられていた。

一方で、同社のようなカット野菜工場では、家庭やその他の食品加工事業者とは異なり、野菜のみを扱っているため、動物性たんぱく質の混入のリスクが全くない。また、葉物野菜のような繊維質の多いものは、豚では消化できないためエネルギーとして利用することができないが、牛のような草食動物では、第一胃（ルーメン）内の微生物によって分解することができ、繊維質もエネルギーとして利用することができる。以上のことから、カット野菜工場から発生する野菜未利用部は、牛用飼料として活用することが最適解と考え、同取組を実施した。

牛用飼料とするにあたって、まず課題となったのが、保存性と流通性であった。消費期限の短いカット野菜を製造する同社のような事業所は、一般的に消費地に近いところに存在しており、酪農が盛んな地方とは物理的な距離があることがほとんどである。もちろん、同社も例外ではなく、カット野菜の製造は大都市近郊の神奈川県大和市で事業を行っており、結果として葉物野菜飼料の販売先は静岡県の大規模酪農家となった。そのため、物流費などのコストを考えると、最低でも 30 日以上保存性とトラック等で運搬のしやすい流通性を兼ね備えた形態が必須であった。

発生した野菜未利用部は、条件にもよるが放置すると 1 日から 2 日以内には腐敗し、飼料としての利用は不可能となる。そこで同社は、牧草等で利用されているサイレージという技術を応用した。この技術は、牧草等を乳酸発酵させ、低 pH 状態とすることで、腐敗菌の生育を抑制する技術である。具体的には、スクリュープレス式の脱水機で脱水した野菜未利用部を、ポリエチレン製の専用内袋をセットしたフレキシブルコンテナバックに封入し、内部の空気をなるべく除き、密封して嫌気状態を作り出すことで、乳酸発酵を促進させ、保存性に富んだサイレージの作成に成功した。



脱水後の
野菜未利用部



野菜未利用部
サイレージ

一方で、課題もあった。野菜未利用部はスクリュープレス式の脱水機で脱水しても、水分率は約 90%とかなり高い状態であり、長期間保管していると離水し、フレコンバックの下部に水が溜まることで、フレコンバックの安定性が損なわれた（下部に水が溜まると、転倒や液漏れし易い）。そこで、水分調整資材として、酪農家で一般的に飼料として使用されている乾燥飼料等を混合することで、この課題を解決した。本手法で作成したサイレージは、保存性および流通性を兼ね備えており、酪農家での使用性が高い設計となっている。

上記のように課題が多く、産業レベルでの飼料化が達成できている事業者は存在しなかったが、同社はノウハウと工夫によりこれらの課題を解決した。一方で、これまで野菜未利用部は乳牛用飼料としてあまり活用されていなかったため、飼料研究の第一人者である「東京農工大学 農学研究院 生物生産科学部門 畜産学研究室 佐藤幹教授」と共同研究を行い、飼料としての安全性および有用性を検証した。その結果、キャベツサイレージを既存飼料の代替として、乾物あたり 10%程度配合した TMR を 2 週間給与すると、乳牛の乾物摂取量および乳量が有意に増加することがわかった。なお、乳質については対照飼料区と差がなく、キャベツサイレージは乳質を維持したまま乳量を増加できる有用な飼料となった。なお研究内容は、2018 年 3 月に開催された第 124 回日本畜産学会にて発表された。

現在、資源循環型のカット野菜工場の実現に向け、端材の飼料化に加えて脱水時に発生する絞り汁を有効活用する研究も進めている。ゼロエミッションに加え、新たなリサイクル・ループの構築を検討中である。

なお、本研究内容については、特許を出願中である（特許出願番号：特願 2018-058299）。



内閣総理大臣賞(2件)

内閣総理大臣賞 「個人・グループ・学校」分野

受賞者名

八戸市立種差小学校

取組の実践場所

青森県八戸市

受賞テーマ

～美しい海と陸をいつまでも綺麗に～

はじまりは昭和43年「海岸清掃活動始動！」 ごみゼロ活動を目指して

同校の学区は種差海岸に隣接し、海とともに栄えてきた地域である。昭和43年から海岸線への漂着ごみや空き缶拾い等の「海岸清掃活動」を行い、同校児童と保護者、地域住民が一体となり環境美化活動を地域全体で展開してきた。



海岸清掃の様子

海岸清掃活動においては、例えばプラスチックを拾う時に、これらが海の生態系に影響を与えることや、不要となったプラスチックをリサイクルすることで海岸のごみなどにならずに資源になることを、児童への問いかけを通じて気づかせたり、学ばせたりする機会にしている。

昭和60年に八戸市がリサイクル事業をスタートするのに伴い、同校PTAでは平成元年に集団資源回収に参加し、28年間継続して地域をあげて取り組んできた。活動を始めた頃は、PTA会員が中心に活動し、学校近隣の4町内(白浜町・深久保町・棚久保町・種差町)を回ってアルミ缶などを回収していた。

平成15年に環境美化活動を八戸市全体で推進する「八戸クリーンパートナー制度」に同校全児童を登録したことを契機に、児童のリサイクル活動に参加する意欲や資源の少ない日本でリサイクルをしていく意識が高まった。

平成21年には、平成元年から20年継続して実施してきた集団資源回収が認められ、環境省等が主催する「循環型社会形成推進功労者等表彰」において、環境大臣賞を受賞した。



同校の平成28年度の児童数は20名、PTA会員19名の小規模校であるが、4町内556戸にアルミ缶・古紙・一升瓶・ビール瓶の集団回収の協力をお願いしている。

ここ1、2年は児童数激減により資源回収量は減少傾向にあるが、4町内での掲示板へのポスター掲示や有線放送による呼びかけ、学校新聞での協力要請等を通して回収量のアップを目指している。集団回収は、5月・9月・11月と年3回実施しているが、最近では児童もリヤカーで学校近くの町内を回って回収している。平成4年から実施している「ゼロの日活動」では、毎月10日・20日・30日と「0」のつく日にポイ捨てされた空き缶やごみを拾いながら登校・弁別し、リサイクルできるアルミ缶は集団回収日まで学校で保管している。



「ゼロの日活動」の登校時にごみを拾う児童

毎回、アルミ缶とスチール缶を弁別し、缶の中に煙草の吸殻等がないかを確認している。大変な作業ではあるが、子どもたちは進んで参加している。親の頑張る後ろ姿を見ているので、自然に粘り強く働く子に育ってきている。

集団回収のリサイクル活動を28年継続してきたことにより「もったいない精神」が身についた。冬にはストーブの周りに黒く塗ったペットボトルを置き、ストーブの熱で水を温め、清掃活動時に使うエコ活動を行っている。

体育で使う石灰は、ホタテ貝から作ったラインマーカーを使用している。環境や体に優しいものを使うよう心がけるようになってきている。

同校の3R・資源回収は「環境教育」全体計画の地域との連携に位置付け、教育課程にしっかり位置づけて取り組んでいる。教育目標を「自ら学ぶたくましい子」とし、「自ら進んで学習に取り組む子どもの育成」を行っている。海岸清掃において児童が持った疑問に対してその答えを教えるのではなく、問いを通じて、自ら考えさせ、答えを見つけるようにしているのは、このためである。

授業は総合的な観点で行っており、その中で環境教育をひとつのテーマとして学ぶ機会としている。

そのひとつとして、ウニの殻むき体験がある。この地域は海岸に面しており、地元でウニが採れるため、ウニの殻むきを学校や漁業組合などで児童に体験させる学習を毎年行っている。むいた後の殻は、以前は漁業関係者が保有する機械で肥料化していて、児童も機械に殻を投入する体験を行い、これらが肥料になる過程を学んでいたが、東日本大震災で機械が津波で流されてしまったため、現在は専門業者に肥料にしてもらっている。



ウニなどの魚貝類から
堆肥を作る活動

これらの肥料の一部は学校で野菜作りなどに使用している。そして、学校で作った野菜は、シェフを招いて実施した家庭科の授業で使用している。授業自体は、地元の食材を知り、料理の基礎を学び、食材を無駄なく使うエコクッキングを学ぶなど様々なテーマが含まれているが、同時にウニの殻が肥料になることで料理する野菜につながっていることも学んでいる。

また、種差の知名度向上（地域振興）のために、お菓子作りにも挑戦した。元々は婦人会で種差の名前が入ったお土産がないという話が出て、そのまま立ち消えになっていたものを、児童の学習のテーマに活用した。種差をアピールする食べものというテーマで児童に考えさせたところ、最初の段階ではウニ丼、磯ラーメンなど一般的なものしか出てこなかった。そこで種差の風物詩を教えたり、地元の住民に話を聞きに行かせたりした結果、地元で採れる海藻を使用したお菓子というアイデアが出た。このアイデアを近所の菓子屋で試作してもらえることになり、児童から出た38のアイデアのうち、3つが製品となった。またパッケージも、図画工作で教えた展開図の応用として、児童の学習の課題にした。児童の図面をそのままパッケージにするのが費用面で難しかったので、実際のパッケージは一番形に近い市販のものにしたが、デザインには児童が書いた絵や学校の写真を使っている。完成した製品はイベントなどに合わせて製造し、児童や主催者などが販売した。購入者の意見は必ずしも肯定的なものばかりではなかったが、児童には消費者の視点を学ぶ良い機会となった。

他にも、地域の特色を学び、それをアピールするというテーマで「種差小景観かるた」作りを行った。このかるた作りにおいては、地元の特色を表す言葉を、かるた作りを通じて児童が調べたり、使ったりする機会となった。例えば、詩人の草野心平が種差海岸から昇った満月を「ザボンのような満月」と表現し、今もこの地域では風物詩となっているが、この言葉は、かるたにも使用されている（そ：空の上 ザボンの満月 絶景だ）。

また、この「ザボンの月」は、児童がアイデアを出して作った3種類のお菓子のうちのひとつの商品名にもなっている（なお、この商品名も児童が考えた）。

このように、同校では地域コミュニティと連携しながら、学校教育を通じて、児童が3Rのみならず地域の特長を持続的に学び、発信する力をつける活動をおこなっている。

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

清水建設株式会社 東京ビッグサイト東側仮設展示場の建設事業

取組の実践場所

東京都江東区

受賞テーマ

容易に撤去が出来るリサイクル 100%の展示場の建設

【活動概要】

同工事は容易に解体出来る建物を企画提案した仮設展示場の建設である。この展示場は計画の時点で約10年後に解体することが予定されている。このため建設のみならず、解体も考慮した設計・工事をおこなった。

受賞者は、全ての基礎に地中梁を不要とした杭頭リングソケットを採用した。杭も引き抜くことを想定しており、鉄くずまたは再利用することで100%リサイクルが可能である。

上部構造は、100%リサイクル可能な純鉄骨構造を採用した。さらに、屋根はダブル折版、外壁はALCとして、いずれもリサイクル可能なECOな建物である。



【杭頭リングソケット、杭】

地中梁不要の杭頭リングソケット構法の採用により、解体し易く、杭を容易に撤去することが可能である。一般的な構法では、通常、地中梁を設置するための鉄筋やコンクリートが必要となり、またその解体においても撤去や処分が必要であるため、資源、工期、費用がかかる。本構法ではこれらを削減でき、資源循環においても、ビジネスにおいても持続可能な取組みである。

地中の杭は、鋼管の下端にスパイラル形状の翼のような物を溶接した鋼管杭を使用し、回転させながら圧入する工法で施工した。解体時には、逆回転させることで容易に引抜くことができる構造になっている。上部鉄骨を解体後、確実に杭撤去を行える。引き抜いた杭はリユース（再利用・再使用）・リサイクル（再資源化）することができる。また、杭を抜き取る際に汚泥が発生しないため、これらの発生を抑制できる。

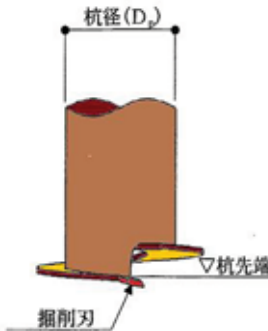


容易に撤去が可能な鋼管杭回転圧入工法を採用

・杭工法として容易に撤去が可能な**鋼管杭回転圧入工法**を採用します。既製コンクリート杭や鋼管杭中掘り工法では、杭の引抜中に杭が折れる場合があり、全て確実に撤去できない場合がありますが、鋼管杭回転圧入工法の場合は、**確実な撤去が可能です。**

リサイクル可能な鋼管杭を採用

・鋼管杭を採用することで、撤去後の杭は全て鉄くずとして回収し、100%リサイクルすることが可能になり、撤去工事時に産業廃棄物が排出されることがありません。



【 上部構造 】

約 2,650 トンの鉄骨は全てリサイクル可能である。催事用の土間ピットのPC化で型枠・掘削土量を最小限にし、キャットウォーク（施設の上部などに設置される狭い通路）の無足場によるユニット化施工で仮設材運搬を最小限にしCO₂を削減した。

約 17,000㎡の屋根は金属屋根とし、断熱用のグラスウールを挟んだダブル折版屋根を採用した。これらも 100%リサイクル可能である。

外壁は開口を除くほぼ全ての部分を撤去が容易なALC（高温高压蒸気養生された軽量気泡コンクリート）と金属版で形成し、約 8,760㎡のALC 施工部もリサイクル可能である。

このように建築基準の強度や耐性を満たしつつも、リサイクル可能な部材を使用し、極力シンプルな構造にすることで、解体を視野に入れた設計を行っている。

同工事の実施内容は、同様の条件における施設の建設・解体にも適用が可能であり、省資源・解体を考慮した建設の先駆けとして期待できる。



ALC外壁施工状況

【 分別活動 】

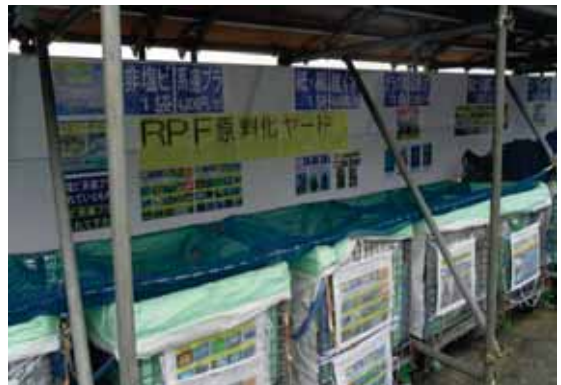
工事中は産業廃棄物の分別管理を徹底し、躯体工事中は外部に、仕上工事中は内部に職長会主導でエコステーションを設置して運営を行った。エコステーションのエリアは10品目の分別箱を設置し、分別意識向上を図るため、廃プラを非塩ビ系（軟質/硬質）と塩ビ系と分けて表示し、混合廃棄物削減のために混廃とそれ以外の処分実単価を併記表示した。

また、石膏ボード端材と付着物の分別、その他の分別物も写真を掲示し、分別徹底を図った。

分別の判断に迷うものについては、従来の工事では電話による窓口を用意していることが多かったが、回答者に正確に伝わらずに間違っただけを分けてしまうことがあった。

そこで、同工事では回答窓口を電子メールで用意し、メールアドレスをQRコード化した。分別の判断が難しい品目については実物の写真を撮り、分別箱の近くに貼ってあるQRコードを読み取って写真を送ることで、回答者が正確に内容を把握して回答することが出来、分別の精度が上がった。

現場に資材納品時にはユニット施工による簡易梱包化を徹底し、CO₂削減にも寄与した。このような取組で総量原単位 14.6kg/㎡、リサイクル率 93.4%を達成した。同工事で培った経験は他現場でも展開可能である。



場外エコステーション



内閣総理大臣賞(1件)

内閣総理大臣賞
「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

株式会社リコー リコー環境事業開発センター

所在地

静岡県御殿場市

受賞テーマ

リユース・リサイクル技術の開発と実践による回収 OA 機器の徹底活用

受賞者は、「環境技術の実証研究」と「リユース・リサイクル技術の実践・最適化」を通じてこれまでの事業領域にとられない新規事業の創出を目指しており、そのなかのひとつとして OA 機器再生センターの役割を持っている。

「リユース・リサイクル技術の実践・最適化」として、全国 12 箇所に分散していた OA 機器のリユース・リサイクル機能を 3 箇所に統合し最適化を図り、同センターはその中心的な拠点となって技術開発を主導し、これまで培ってきたリユース・リサイクル技術をさらに発展させ、対象とする製品・領域を拡充してリコーグループの収益力を強化していく。



同センターには、日本全国から回収されたリコー製品（複写機・プリンター類）が集められる。回収された製品は、

- ①リコンディショニング機として再生、
- ②リユース可能部品を抜き取り、交換部品等に利用、
- ③マテリアルリサイクル等での活用

というように、その製品の状態に応じて活用されている。

① リコンディショニング機（RC 機）として再生

回収した製品に対し、先進の技術によって再生処理を行う。リユース部品の使用率は質量比で平均 80%を達成し、製造工程における CO₂の排出量は新造機と比較して約 79%削減した（下図）。またリユース部品を使用しながら、新造機と同等の品質検査をクリアしている。同センターでは、今まで分散していた再生拠点の技術を集めることで、より高効率・低コストの再生体制を構築することが可能となった。



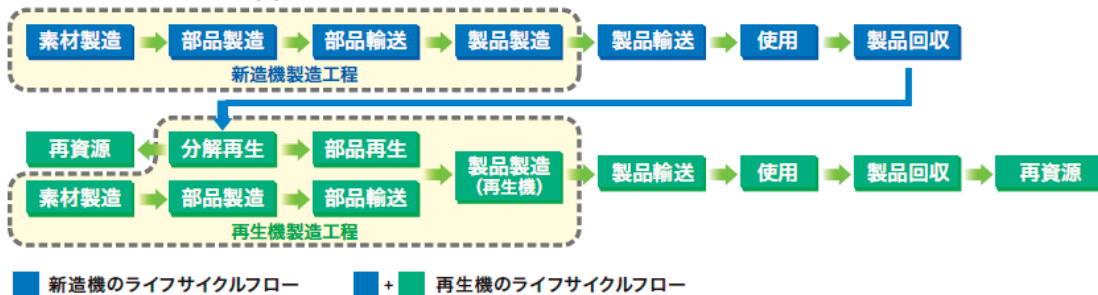
imagio MP C4001RC

〈imagio MP C4001RCの場合〉



※リコー調べ。(2016年5月現在)

■ライフサイクルフロー図



② リユース可能部品を抜き取り、交換部品等に利用

①の再生機としての活用が難しい回収機は、機械中の利用可能な部品を抜き取り、再生処理を行い、顧客先で交換部品等として活用されている。

③ マテリアルリサイクル等での活用

リユースが難しいものについては、リサイクル・再資源化を行い、最終処分される量を徹底的に削減している。例えば、筐体に使用されていたプラスチックの一部を回収し、材料メーカーに供給することで、リコーの新製品筐体のプラスチックとして再使用される、プラスチック・クローズド・マテリアル・リサイクル (PCMR) の体制を整えている。

<活動による効果>

【廃棄物の削減効果】

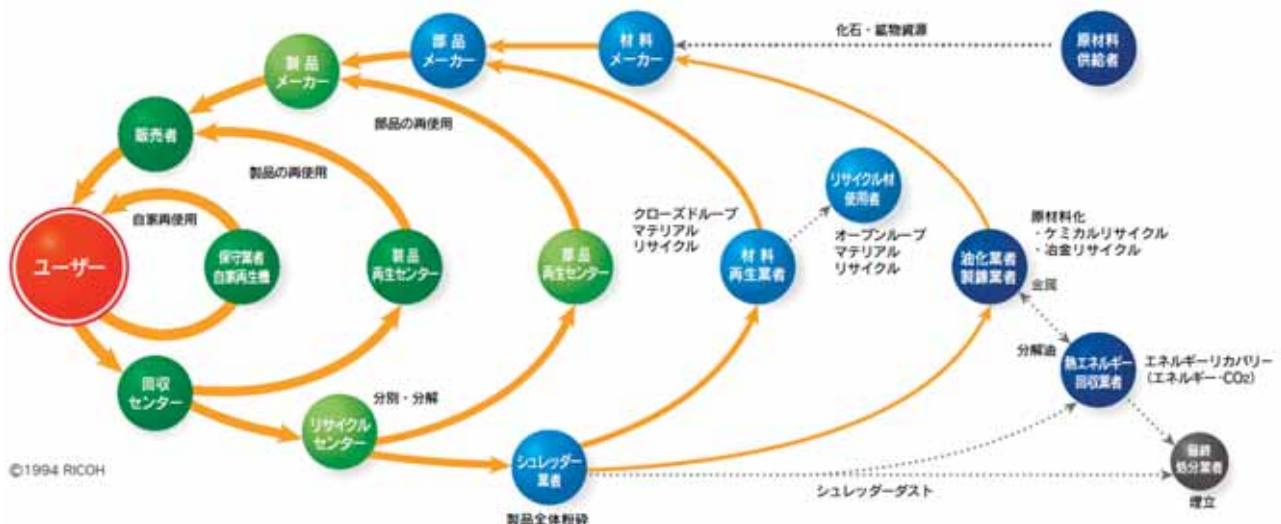
同活動により、回収された製品の再資源化率は99%を超えている。また、2014年度の日本国内における実績値は、複写機で99.74%の再資源化率を達成している。同センターの技術開発により、より高度な再資源化処理となることが期待される。

【省資源・省エネルギー効果】

製品・部品リユースによる、原材料・部品調達起因のCO₂排出量の削減効果は、約2万8千トンになる(リコーによるLCA算定結果を利用)。

<コメント・サークル>

同社では、1994年に制定した持続可能な社会実現のためのコンセプトである、多層構造のリサイクル(再使用・再資源化)システム「コメント・サークル」に基づいて、今後もより環境負荷の低いリユース・リサイクル活動を進めていこうと考えている。同センターで培ったリユース・リサイクル技術は、今後もリコーグループの海外拠点へと水平展開し、グローバルでの省資源化活動を加速していく方針である。



このコメント・サークルの資源の経済的価値が最も高いのは、「製品として顧客に使用してもらっている状態」である。リコーグループでは、使用済み製品を再び経済価値の高い状態に戻すため、コメント・サークルの内側ループである製品のリユース、部品のリユースを優先的に採用している。部品としてリユースできないものはマテリアルリサイクルに回るが、その場合も高品質な素材へのリサイクル、再び自社で使う資源に戻すクローズドループのリサイクルを進め、より高い経済価値を追求している。



内閣総理大臣賞(1件)

内閣総理大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

**株式会社ウジェスーパー
株式会社ウジェクリーンサービス**

所在地

宮城県登米市

受賞テーマ

**『エコーガニック with ノーマライゼーション』
食品スーパーが提案する環境ループ事業**

受賞者（ウジェスーパー）は、日本有数の米どころ登米市に本拠地を置き宮城県内に 30 店舗を展開する、地産地消を積極的に取り組んでいる地域密着型の食品スーパーである。同社の障がい者特例子会社として、平成 18 年 3 月に設立したのが受賞者（ウジェクリーンサービス）である。

スーパーでは毎日大量の廃棄物が発生するが、野菜や果物などをクリーンサービスで有機質肥料にしている。地元の農家・醸造会社と連携して、この肥料を使用した米を作り、さらにその米で作った高品質の味噌を作るなど、廃棄物を付加価値のより高いものに変える食品リサイクル・ループを構築している。リサイクル・ループは、再生利用事業計画の大臣認定を受けており、食品リサイクル率は 65.2%（平成 25 年度）を達成している。

作られた米や味噌は、受賞者が全量買い取り、それらを自らプライベートブランド商品として販売することによって、リサイクル・ループが持続するように取り組んでいる。地域密着型という強みを生かし、地元の会社と一緒に取り組むことによるリサイクル・ループを通じた地域活性化に貢献し、これらの活動を障がい者と一緒に行うことでノーマライゼーションを推進している。

受賞者は元々、障がい者雇用と共に分別リサイクルに取り組み始め、営業活動を通して排出される廃棄物を少なくする努力をしていたが、更に環境に優しい廃棄物処理の方法を探していたところ、24 時間で野菜・果物の残さを完熟発酵させて有機質肥料をつくる装置があることを知った。この装置の特徴として、作業工程が【生ゴミを入れる】→【できあがった肥料を取り出す】と簡素化されていて、障がい者でも作業が可能であった。この装置を取得し、つくった有機質肥料は、無限にリサイクルができるようにという想いを込めて『無限』と名づけて商標登録した。



食品残さを収集運搬するパッカー車（左）、食品残さに異物が混入していないか確認（中）、有機質肥料『無限』（右）

この『無限』を使い、豊かな登米耕土の力で、地域と共に米を通じた地域おこし・登米のブランド力向上に活かしたいとの思いから、登米ブランドの構築に精力的であった登米市の市長に相談したところ、地元で代々続いている専業農家を紹介してもらった。

始めは生産者も化学肥料や農薬の使用を抑えた米づくりに対して心配をしていたが、何度も打ち合わせを行ない、有機質肥料『無限』を使用した稲作栽培が始まった。『無限』で作られたお米は、地元登米市の水田で丁寧を作り、登米が元気になるようにという想いを込め、「登米」の地名にちなんだ『無限のぼり米』と名づけた。この『無限のぼり米』は、受賞者が全量買い取り、販売している。

平成 20 年からは、地元の石越醸造と連携して無限のぼり米を 100%使用した純米吟醸酒を造り、平成 21 年 3 月全店舗にて限定販売を開始した。このお酒を通して登米に恋して欲しいとの想いを込めて『恋のぼり』と名づけた（期間限定生産）。

平成 21 年 12 月からは、同じく地元のヤマカノ醸造と連携して無限のぼり米 100%と登米市中田町産特別栽培大豆を使用した十割麹味噌『夢のぼり』の仕込みに着手し、販売している。



『無限のぼり米』



『恋のぼり』



『夢のぼり』

また、『かだっぱり』というプライベートブランドを作った。かだっぱりとは登米の方言で良い意味の“頑固者”のことである。有機質肥料『無限』を使用して野菜を栽培・収穫し、それらを全量買い取り、スーパー全店舗にて『無限かだっぱり』として販売している。

平成 21 年 3 月からは、障がい者自らが田畑を耕して有機質肥料無限を使用し無農薬・無化学肥料にて栽培する『無限てるてるファーム』を始めた。天日干しの稲作や季節の野菜づくりを行なっている。

平成 26 年からは、東京に本社があるカミツレ研究所からの委託によりカモミールの栽培を開始した。カモミールは、農薬や化学肥料を使用せず、天日乾燥させている。

他に、レジ袋有料化、販売期限や消費期限の近づいている商品を独自のウジエコシールを貼って値引きのお知らせ、店舗から排出されるダンボール、紙類、廃食油、魚あら、生肉くず等を分別してリサイクルや飼料化。

また、登米市と連携し廃食油を店頭で回収し障害者施設にて BDF 化する取組を始めている。



カモミール栽培



ウジエコシール



内閣総理大臣賞(1件)

内閣総理大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

宝酒造株式会社

所在地

京都府京都市

受賞テーマ

「容器の3Rにリフューズ(Refuse:発生回避)を加えた4Rの取り組みの推進」

同社は、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなど様々な容器に充填して販売している。これらの商品の中身が消費されたあとに発生する空容器が社会に大きな環境負荷を与えていることから、同社では空容器問題への取り組みを自然環境保護と並ぶ環境活動の2本柱と位置付け、長年にわたり継続して取り組んでいる。

例えば、1989年に日本で初めてステイオンタブ(SOT)を採用、1994年に主力商品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドをリターナブル化、1998年に焼酎のはかり売りを開始しており、これらは現在も継続して実施している。

商品開発では、リデュース、リユース、リサイクルの3Rに、同社独自の取り組みとして、余分なもの(容器)を買わず必要なもの(中身)だけを購入するリフューズを加えた4Rの取り組みを「環境に配慮した商品開発のための指針」に基づき進めている。

【リフューズ】

1998年から、新たな容器を使用せず中身だけを購入する「焼酎のはかり売り」を開始した。

1kℓと200ℓのはかり売り専用タンクを開発し、工場での専用タンクに焼酎を詰めて販売店に直送する形で実施している。消費者は家庭にあるペットボトルなどの空容器を販売店に持参し、販売店でその容器に消費者が必要な分だけ詰めて購入する仕組みである1998年の開始以来2014年3月末迄に、2.7ℓペットボトル換算で約752万本と段ボール約188万枚を節約している。

【リユース】

一升びんの使用は国内トップクラス。国内リユース・システムを維持するため、P函出荷を堅持(一部例外あり)。また、主力製品である宝焼酎「純」、「純」レジェンドの720mℓびんをリターナブル壇に変更し、2014年3月末現在、累計約9,300万本のリターナブルびん(洗い壇)を購入・使用している。

(右の写真はP函。びんを良い状態で回収するために採用している。)



【リデュース】

あらゆる容器のリデュースを継続して進めている。2002年度に焼酎エコペット*を、2003年度に宝焼酎「純」720mℓリターナブルびんを軽量化した。さらに、2004年度には「タカラ有機本みりん」に従来のものと比べ約3割、約100gも軽い“超軽量ガラスびん”を採用した。その後も、種々の容器の軽量化に継続して取り組んでいる。

* エコペットについては、酒類業界で初めてPETボトルリサイクル推進協議会の第二種指定PETボトルの自主設計ガイドラインに完全対応した商品「宝焼酎2.7ℓ<エコペット>」を発売した。

【リサイクル】

1999年から、本みりんや料理用清酒に使用後の分別リサイクルが簡単にできる機能をもった「はずせるキャップ」を採用した。タカラ本みりん「醇良」は、酒類・調味料製品で初めて「はずせるキャップ」を採用した商品である。

2007年に、清酒の外装フィルムにトウモロコシでんぷんを原料とする生分解性プラスチックを清酒業界で初めて採用した。

2011年に、清酒松竹梅「天」に、飲み終わった後に手軽に丸めてコンパクトにしてリサイクルに出せるパウチパックを採用し、その後も対象を他のアイテムにも拡大している。

【工場の副産物・廃棄物の再資源化】

工場から出る蒸留副産物や原料粕、汚泥、動植物性残渣、ガラスや金属くずなどの副産物、廃棄物の有効活用に努め、再資源化率 98%を達成している(2012 年度実績)。

【環境教育】

2004 年に NPO 法人日本環境倶楽部と共同で子供向けの環境教育教材、飲み物容器のリサイクルを紹介した絵本「TaKaRa リサイクルロード」を作成し、全国の小中学校の希望者や同社が出展する環境イベント等にて無償で配布している。隔年でデータを更新し、現在は第 6 版。発行部数は延べ 26,000 部で累計配布部数は 21,000 部となっている。



2012 年より、ごみ問題や容器の 4R について、リサイクル体験など親子で楽しく学ぶ、宝酒造「エコの学校」を開催している。

2014 年度は京都市、神戸市で計 4 回の開催を予定。京都開催では、京都市が後援、京エコロジーセンターの協力で開催している。

また、神戸開催は、神戸市との共催となる。今後、開催都市や開催回数を増やしてくる計画である。

■日本で初めてとなるステイオンタブ採用

1989 年に日本で初めて、スポーツドリンク「PADI」に缶からタブ（引き金）が外れないステイオンタブを採用した。それまでの飲み口から外れるプルタブで問題となっていたポイ捨てによるタブの散乱や動物のタブ飲み込み被害の防止に役立った。



■焼酎のはかり売り

量り売り用の専用タンクはステンレス製で何度も繰り返し使用することが可能である。空になった専用タンクは工場に戻され、洗浄した上で焼酎を再充填し、再び販売店に送られる。

量り売りを実施している販売店は全国で 159 店舗（平成 26 年 9 月現在）あり、同社ではさらに増やすための活動を継続している。





限りある地球の資源を大切に！

◆リデュース・リユース・リサイクル推進協議会は

消費者・教育機関・産業界・行政など多くの主体が連携しつつ日本全国で3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）を推し進めてゆくことを目的とし、国民的運動を展開することを使命としています。本協議会は、リサイクル推進協議会として発足いたしましたが、3R推進の重要性を認識し、より一層循環型社会形成に資するために現在の協議会に進化させました。

日本は循環型社会構築という面では世界を一步リードするところまで来ていますが、それでも十分とは言えず、まだまだやるべきことが多く残されています。今後日本で更に優れた資源循環を推し進めてゆくために、本協議会は、3Rの普及・啓発などの活動を積極的に行ってまいります。

協議会のホームページ：<http://www.3r-suishinkyogikai.jp/>